

自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

令和6年【竹の宿】

令和6年10月11日

令和6年11月8日

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
I. 理念・安心と安全に基づく運営							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	理念の意味について理解を深め、実践に繋げる努力をしている。			
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	苑や隣接施設で行われるボランティア行事への参加や地域の行事への参加で交流していたが、いずれも現在は中止となっている。	以前は利用していた傾聴ボランティアは現在利用が難しく中止となったままである。家族によるボランティアは可能だが他入居者家族の理解が必要となる。面会時間15分、外泊可、外出時の食事は可能となるが家族(少人数)で家のみ、外食は中止となっている。その際食事の形態等伝えて気を付けてもらえるようにする。地域で開催しているオレンジカフェのミニ講話への参加を検討している。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	会議には桑名市や地域包括支援センター担当者、家族代表、地域代表に参加頂き、サービスの実情を報告、意見交換で出された助言等をサービスの向上に活かすよう努めている。令和3年からは、運営推進会議での外部評価を実施している。	会議に参加することで、苑が取り組んでいる内容などが良く分かり、充実した会議をしているという意見を頂く。		
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	主に運営推進会議の場で事業所の課題について伝え、意見を求めている。	市の防災担当者に指導を受け、三重県土砂災害情報提供システムを参考にしている。職員もシステムに慣れるため雨が降る時には利用している。指導内容として、玄関側の土砂が危ないので避難の際は北側にする。一時避難は垂直避難とする。三次避難場所を公園からハツラツホールと変更した。		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	年2回、身体拘束についての研修会を行い、禁止の対象となる具体的な行為について周知している。月1回のケアミーティングにて検討し、2か月に1回の委員会(運営推進会議)で報告している。「言葉による拘束」に繋がる言葉かけを行わないよう、教え合う体制を作っている。自由にユニット間の交流をする環境は作れていない。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	定期的に研修会やミーティングを行い身体拘束をしないケアについては十分に実践されている。テラスの花を見るなどちょっとした外出などでユニット間の交流は出来ていて空間的な拘束は無いように思う。言葉による拘束に繋がる言葉がけや対応、態度に意識を持つことが重要。どのように統一されているのか運営推進会議等で今後報告を頂けるとよい。

6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	虐待防止の研修会で学ぶ機会をつくり、週1回のカンファレンスや月1回のミーティング、毎日の申し送りなどで不適切介護を含めて検討し、常に注意と防止を呼び掛けている。		<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	研修が行われており定期的に検討されている。毎日の申し送りで常に注意と防止を心がけている。定例会での報告もしっかりとされている。ぶつけたなどの事実も減っている現状も良いと思う。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている <input checked="" type="radio"/> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	制度について学ぶ機会をつくり、関係機関へ繋ぐ重要性の理解に努めている。			
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	契約時の説明を行いながら疑問点に答え、入院時や制度の改定などによる状況の変化がある場合にも説明を行い同意を得ている。			
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	会話や日頃の関わりの中で利用者の思いを汲み取る様に努めている。家族の来所時や電話で、意見や要望を聞く機会を設けている。体調管理や活動においては個別の対応に努めているが、意向を運営へ反映できないこともある。		<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	運営推進会議でも毎回利用者家族の出席があり風通しの良い関係が築けている。アンケートが実施され疑問や要望についても適切に対応されている。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	週1回のカンファレンスや、月1回のケアミーティングで職員の意見や要望を聞く機会を設け、日常的にも管理者に言える状況を作り、必要に応じ法人会議にかけている。			
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	資格取得の支援、勤務状況の把握、働き方改革への取り組み等を行い、向上心を持って働けるよう努めている。		<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	資格取得のための支援があり職員のスキルアップや自信へと繋がり向上心を持って働ける環境にある。就業環境にも目が行き届いており管理者と職員間の関係性が良好に見える。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	法人内外の研修を受ける機会が確保され、法人外研修は、管理者や職員の希望に応じて参加している。		A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員の希望に応じて研修を受ける機会が確保されていて個人に合わせた成長が出来る。さらに伝達研修やOJT研修で学びの場を確保し職員のスキルをアップすることで人手不足の問題を解消出来るような少数精鋭の配置が求められる。

13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ③あまりできていない D. ほとんどできていない	三重県地域密着型サービス協議会や地域で行われる研修会、または、活動に参加することで同業者との交流を図っているが頻度が少なく、目指すところまで達成できていない。			
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A. 十分にできている B. ③ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	苑を「生活の場」として、家庭的で楽しい雰囲気にする、信頼関係を築くこと、また利用者が助け合いの心を持つことを大切にしながら、出来ることはお願いしている。			
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ③あまりできていない D. ほとんどできていない	会話の中で個々の懐かしい話を話題にするよう心掛けている。家族との外出や帰宅は感染症の流行を見ながらの実施。施設行事として馴染みの場所や近所の公園、店舗への外出頻度を増やすよう企画中。	馴染みの人や場所ということでは、外出などで家族の力を借りていきたいと考えている。		

Ⅱ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A. 十分にできている B. ③ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	生活の中で、「本人はどうしたいのか」を聞き取り、または、感じ取ることで、意向の把握に努めている。			
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	A. 十分にできている B. ③ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個別援助計画を作成し、週1回カンファレンスを行いモニタリングを実施。目標の達成度について話し合い、本人、家族の意向や職員の意見を個別援助計画に反映している。また、認知症の行動・心理症状への対応方法についてチームで話し合い、入居者にとって安心な暮らしの実現に努めている。	認知症チームケアに取り組み、情報をまとめ共有することで同じ方針で対応していける。カンファレンスは一人ずつ順番に毎週行っているが、入居者に変化があった場合は随時行うこととしている。認知症チームケア会議については月に一回行う。	A. 十分にできている B. ③ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の生活や意向、家族への聞き取りを行い寄り添った介護計画が作られている。検討や評価は毎月行われており、その際はパーソンセンタードケアを大切にしたい。介護のPDCAサイクルを重視し目標達成に向けたプランの再考を行って欲しい。家族との連携についてメール等の活用を検討を課題とする。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A. 十分にできている B. ③ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日々の様子やケアの実践は個別に記録し、申し送りやカンファレンスでその情報を共有しながら話し合っている。職員の気づきや工夫についても記録と情報共有に努めている。		A. 十分にできている B. ③ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	ケア内容、目標の共有化には観察記録への記載が大切。ほんの少しの情報であっても共有することで利用者の心情が読み取れ、個人に合った介護に繋がるため今後も引き続き継続してもらいたい。出来なくなってきたことも声かけしながら工夫してもらえていることが分かる。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ③あまりできていない D. ほとんどできていない	一時的に継続した医療の必要が生じた際の内科への通院支援を行っている。状態が変わり、個別の体調管理が必要になった場合は家族、主治医との連携を特に密にし、個々に合わせた支援を行っている。施設内に留まらな	一時的な医療として、水分が摂れず点滴による水分摂取が必要な入居者に対して継続して行った例がある。新たなサービスについては、他の施設の情報がないこともあり、良いものを探している状態である。		

				い新たなサービスについても取り組んでいきたい。			
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	運営推進会議参加者からの助言等を、防災や活動に活かせるよう努めているが、ボランティアの受け入れ再開や地域行事への参加が出来ていない。	社会福祉協議会での有償ボランティアが可能なら音楽療法等があるので利用を検討してみたいという意見を頂く。傾聴ボランティアは距離感の問題もあり中止しているがその他を検討していきたい。		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	かかりつけ医を協力医に変更等の説明を入居時にしている。週1回協力内科医の往診がある。口腔や目の不調があった時は、本人や家族に治療についての意向を聞き、協力医へ伝えている。その他の医療機関への受診は、医療間連携と家族の協力を得て行っている。			
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入退院時、医療機関との書面と口頭による情報交換を行っている。また、居室の確保についての家族との相談、退院の見込みがついた時からの病院関係者や家族との情報交換、退院に向けての相談に努めている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入退院時における利用者の情報共有、交換が迅速に行われている環境にある。連携のとれる病院がある利点は家族の安心に繋がっている。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居時や体調に大きな変化があった時に、本人、家族、主治医、管理者同席で、重度化した場合や終末期についての話し合いと意向の確認を行っている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	家族への対応が早く細やかに出来る環境にあり、連絡が密に取れていると感じている。終末期をどのように迎えたいのか、施設の出来ることも含め本人家族との擦り合わせが必要と考える。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	急変や事故発生時のマニュアルを備え、研修と訓練を行っている。職員が自信を持って行動する為、「実際に行動する訓練」を充実させていく必要がある。			
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	災害対応マニュアルを備え、年2回消防署員の指導の下、訓練を行っている。土砂災害を想定して、搬送方法の検討や備蓄品の見直しを適宜行っている。火災・土砂災害・地震について、「実際に行動する訓練」を行っている。地域や他施設との連携が今後の課題。	地域や他施設へ協力を仰ぐ際には救護者の認知症への理解が大切と考える。そのため持ち出しリストには本人の顔写真やアセスメントをまとめたものを用意している。建物横の斜面の土留めには水抜きパイプが多数あるが、竹林の根の下の地盤は弱くなっていることもあり近年の多雨で近隣の土砂の崩れを見かけるようになった。市内で同じような土留めコンクリートが崩れたこともあり警戒している。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	訓練内容も多く持ち出し用の物品やアセスメント情報の管理が出来ている。法令以外に独自の訓練を増やし反復することが必要。災害時は近隣の被害も想定されることからどのような協力体制が得られるのか、施設が援助側となるのかの想定も必要。また職員の家庭の状況の確認や、災害時に利用者家族とのトラブルも考えられるためリスクマネジメントは重要と考えられる。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員自身が気付かない事もあり、気になる対応や言葉かけがあった場合には注意し合い、人格尊重やプライバシーの保護に努めている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員同士が注意し合える関係性が出来ている。個人によりプライバシーの相違はあると思うが、会話やレクリエーションの際にできる小さな事にも職員が気づき対応出来ていると感じる。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食事や入浴など、ある程度時間帯の決められた一日の流れの中で、利用者の思い、暮らしのペースを優先することを心がけ、柔軟な対応をしている。			
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	米飯は苑で炊飯。副食は三食とも法人の厨房で調理したものを、苑で盛り付けて配膳している。食事前にメニューを伝えている。できそうな方やしたい方はテーブル拭き、自発的な下膳、食器洗いなどの片付けを職員と一緒に、意欲に繋げている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食べることは楽しみの一つでもある。食前にメニューを伝えることや、食後に下膳や洗い物など自発的にお手伝いをしてもらえることを大切にしている。能力や意欲に合わせて対応していることが利用者の意欲に繋がりが、よりよい食生活に寄与していると思われる。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食事の様子観察、摂取量の記録をしている。食前の口腔体操、歯科に相談しながら噛む力の改善、ムラなく食べる為の声かけや食形態の工夫をし、個々の好みとタイミングに合わせた水分提供をするよう努めている。			
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の力に応じ、声かけ、歯磨き、口腔清拭、磨き直し等の介助を行っている。自分で行える方にも、「できているか」の見守りをするよう努めている。歯科からの助言を受けケアの実践に活かしている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	歯科医の助言を受けケアの実践に活かされていることは家族の安心に繋がる。介助しすぎることなく各自が出来る範囲でケアが出来ている。口腔ケアは全身への影響へも繋がっていくため、どれくらい出来ているかの確認は重要。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	排泄の記録から、個々に合わせた声かけ、誘導等を行っている。また、トイレの場所を分かり易く表示し、トイレでの排泄、排泄の自立に向けた支援を行っている。便秘については、原因別の個々の対応を検討し、主治医とも相談している。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	排泄行為が自分で行い易いような標識や声かけ、誘導がされていて自尊心を傷つけることのない支援が出来ていて模範的だと感じる。排便管理についても一か月分の記録に基づき個別に対応出来るよう注意を払っている。
32	入浴を楽しむことのできる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	1人につき、週3回程度入浴できるようにしている。時間帯は決まっていますが、その中で本人の体調やその日の気分に合わせ、入浴の順番を変更したり、入浴日を変えるなどしている。			

33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日中はなるべく活動的に過ごせる よう、手作業や運動の機会を作り ながらも、一人一人の体調や希 望に合わせ、適度に居室で休ん だり、ソファでくつろいで過ご せるようにしている。心穏やか に眠りに就けるよう職員は関 わり、就寝時間は一人ひとりの ペースを大切にしている。			
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	体調の変化があった場合は薬と の関係も意識し、薬情報で確認 している。分からないことは、 医師、看護師、薬剤師に相談 し、指示を仰いでいる。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個別に服薬支援、体調への気配 りが出来ている。薬の飲み易さ 等に配慮がされている。近く に相談できる医師、看護師、 薬剤師などがいることは強 みである。薬の誤服薬等につ いての管理は重要、複数の職 員による確認を行うことが有 効である。
35	役割、楽しみごとの 支援	張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、 嗜好品、楽しみごと、気分転 換等の支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	持てる力に応じた役割や楽し み事を続けられるよう心がけ、 日々の活動に活かしている。利 用者個々の生活歴や力に合わ せた活動を増やし、誰もが楽 しみある生活を送れるよう常 に新たな活動を模索し、取り組 んでいる。	入居者の出来ることは活動の 一つとして支援している。現 在シーツ交換、掃除機掛け、 窓拭き等の家事的作業の活動 が活発に行われている。自 発的に行っている入居者につ いてはどんどん仕事をお願い している。今後仕事内容を増 やしていきたい。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所 でも、本人の希望を把握し、 家族や地域の人々と協力しな がら出かけられるよう支援 している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	花見は市内の公園や道中の沿 道に咲く桜を見て回った。「 苑の買い物のお手伝い」とし て、近くの店舗へ行く。個々 の希望に沿っての外出はでき ていない。	外出時の食事が可能となった こともあり、家族の方からも 様子を見ながら外出してい きたいという意見を頂く。外 出時は車椅子対応となる場 合もある。その他にも家族に 分からない事があれば職員 から対応の仕方等を説明し ていく。		
37	お金の所持や使う ことの支援	職員は、本人がお金を持つこ との大切さを理解しており、 一人ひとりの希望や力に応じ て、お金を所持したり使える よう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個人でお金を所持している入 居者は殆どおらず、苑内で 使う機会はない。近くの店 舗での苑の買い物で支払い を手伝ってもらっている。			
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自ら が電話をしたり、手紙のやり 取りができるよう支援して いる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	携帯電話は自分で管理できる 方に限って所持可となっている。 手紙の返事を書く支援は本 人の希望を聞いて行っている。 また、季節の絵手紙を、そ れぞれが家族に向けて書い ている。			
39	居心地のよい共用 空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体 機能やわかる力を活かして、 安全かつできるだけ自立した 生活を送れるように工夫して いる。共用の空間が、利用者 にとって不快や混乱をまねく ような刺激がないように配	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者の身体機能に合わせた 椅子やクッションを使い、リ ビングには利用者と職員が一 緒に作った季節毎の壁画や 飾り物を飾っている。温かい うちに食事が届き、職員が 盛り付けを始めることで、食 器の音や料理の香りがリビ		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	限られた中で音楽や食材など 季節感を演出していく努力 と工夫が感じられる。個人、 利用者同士の距離感や座席 の配置に気持ちよく生活が 送れるような配慮がある。今 後感染対策を行いつつ幼児 と過ごす機会があれば楽し い時間を持つことが出来

		慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている		ングに広がり、食事の時間が近いことを感じてもらっている。			るのではないかと期待する。
IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)							
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	見え難さや聞こえ難さ等を含め、個々のコミュニケーション方法に合わせた意向の聞き取りがされ、それぞれの暮らしへの意向に沿った対応がされている。			
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人への聞き取りや家族から聞いた情報、日常の会話などから、生活歴や趣味等が把握され、普段の会話やケア、活動、行事に活かす努力がされている。			
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個々に違う病状管理や体調変化に応じて適切なケアや治療を受けることができています。また、事故防止と自立の両面から、生活環境への配慮がされている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	自身の体調不良などうまく説明出来ないケースがあると思う。本人の体力や体調も日々変化しているが、様子や表情など目配り、気配りが行き届き、また報告、記録の徹底で一人一人に対応できている。
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	トイレや就寝、やりたいこと、過ごしたい場所など、その時の体調や希望に合わせて、自分のペースで生活できている。			
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	家具や棚の持ち込みは殆どないが、記念品、アルバム、本、写真、ぬいぐるみ等思い出の品、衣類、時計や櫛など細かな日用品は身近にあり、安心を得る様子が見られる。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人にとって大切にしている物や安心出来る物を身近に置けることは落ち着ける環境への配慮となる。生活の一部となる物に危険が考えられる場合には工夫が必要となる。
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の希望によって日光浴や花の手入れをしたり、他のユニットで行う苑行事に参加することができている。気候や感染症の発生状況を見ながらではあるものの、近くの店舗や公園へ出かける機会を作っている。	コロナ禍には行けなかった選挙の投票も、現在は本人の希望があれば可能である。 気分転換のために外に出てもらい、しばらく過ごすことで気晴らしをしてもらうこともある。 秋には外出する機会を作りたいと考えている。		
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができています	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	困難なことは職員の助けを借りながら、一人ひとりの意欲と体調に合わせて、洗い物、針仕事、掃除などの家事的な作業や創作など趣味的な活動に参加できている。			

47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができる	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	ソファに集まり、利用者同士や職員との会話の機会を持ち、楽しむことができている。一人ひとりの体力や興味にあわせた活動への参加ができている。	/	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	楽しみを持つことで生き生きと過ごせることに繋がっていく。ソファに集まったの利用者同士の交流は楽しみの一つとなっている。本人の趣味や関心事について触れられる機会が持てるように職員が誘導できると有意義な時間が過ごせる。
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができる	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input checked="" type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	近隣や地域の人々との交流は、外出希望のある方が店舗や公園で関わる程度に留まっている。	外出することが不安と感じる場合もあるので、その時々に合わせて無理なく勧めるようにしている。	/	/
49	総合	本人は、この GH にいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることできている	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	苑内で親しくなった人との関係や職員との信頼関係は良好で、困りごとがあっても職員に相談することができる。家族との外出や地域との自由な交流、ボランティア等を招いての交流ができている。	竹の宿は入居者が多く入れ替わり、新しい繋がりが出来ることで活性化している。入居時は不安で多くの支援が必要な場合でも、少しずつ慣れることで落ち着いていくことが多い。職員が長く続けられるように、大変な分職員のケアを大切にしたいという意見を頂く。今後は地域の人との交流を考えていく必要がある。高齢者同士や子供との交流、その他オレンジカフェや体操等の参加が出来ればという意見を頂く。	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	家族との外出もできている様子である。親しい人との交流もあり家庭的な雰囲気の中で穏やかに過ごしている。利用者と職員の信頼関係は生活していく上で重要であり、苑内での仲間との繋がりがりも含め良好のようである。それらが出来ており家族の安心へと繋がっている。苑内での生活が本人にとっての生活の全てとなるため、本人が安心して安全に過ごせる環境と対応を今後も継続してほしい。